

みらいずカレッジレポート

参加の動機

今回、みらいずカレッジの講座に参加した理由は、私がより良い問いをどうつくるのか？ということに関心があったからです。私は大学院で研究をしていますが、研究を進める上で重要なのは、この論文がどのような問いに答えるものなのか、つまりどのようなリサーチ・クエッションに答えるものなのかを明確にすることです。そのため、問いをどうデザインするか？ということに直接関係するこの講座を受けたいと思いました。

また、この講座で参考図書になっていた「たった一つを変えるだけ」という本という本を持っており、そこにある質問づくりの手法をより深く理解したいと思っていたこともこの講座に参加する気持ちを後押ししてくれました。というのも、みらいずカレッジに参加する前にも、この書籍の著者のワークショップに参加し、質問づくりは楽しみながら問いを作りだす力が養える優れた方法だと実感していたからです。

講座を通じて学んだこと、自身の変化

講座を通じて学んだことは、質問の焦点の使い方です。この講座では、質問を出すところから「質問の焦点」というものをまず作ります。これまで私は質問の焦点はできるだけ具体的な現象を書いていました。そうした理由は、事前に受けていた著者のワークショップでもそうだったのと、その方が具体的な問いが出やすいですし、自分たちが何について話し合っているのかもわかりやすかったのと考えていたからです。しかし、今回のワークでは「探究活動とそれを阻むもの」という抽象的な質問の焦点でした。実際にワークで質問づくりをしてみると、なかなか質問を作るのが難しかったのですがその問いは、問題意識として頭に留めておきたいと思えるものが多かったように感じました。

また、ファシグラをしている人が多かったからか、出て来る質問同士を関連づけて書く位置などを変えていたのも面白いと思いました。こうすることで、でてくる質問の傾向が視覚的に把握できますし、まだ出てきていない問いに対しても意識を向けることができるので、今度使っていきたいなと思いました。

今後やってみたいこと

今すでにやっていてこれからも継続していきたいと思っていることは、講座や家庭教師などで生徒自身に質問づくりの時間を作るということです。質問づくりの良いところは、質問に意識を向けることで「正解」を気にせずに自分の思ったことを素直に出しやすくなることです。普段答えを出すことにどうしても意識がいつってしまうので、この質問を出す時間は

大切だと考えています。また、読書などでもこの質問づくりの手法は有効であると思っています。重要な一文などを質問の焦点とし、それに対して質問をどんどん出していくことで本の内容を漫然に読むのではなく、より内容を考えながら読めるようになると思います。

今後やっていきたいと思っていることは、質問だしのときにどうすればより面白い質問や重要な質問が出るのかについて考察を深めることです。質問づくりは、質問を出す練習として効果的だと思いますが、面白い問いや重要な問いはまだまだセンスに頼るところが大きいです。そこの部分をこれから考えていきたいと思っています。